

アンケートに寄せられた質問【一部抜粋】

※ご連絡先のないご質問等もございましたので、この紙面上にて回答とさせていただきます。なお、より詳しい内容については白石市社会福祉協議会地域支援係までご連絡ください。

Q: あじさいの植栽について色々知りたかった。手伝いたい。他。

A: この4月からまた「手入れ活動」が再開され、6月からは草刈りが始まります。

詳細については白石市社会福祉協議会地域支援係までお問い合わせください。

Q: 斎川まちづくり協議会について

A: まちづくり協議会は越河・斎川・大平・大鷹沢・白川・福岡・深谷・小原の8圏域にあり、地域活性化活動の中心となる住民主体の団体の1つです。運営にあたる事務局も全て地域の方々です。斎川まちづくり協議会もまさに地域に根ざした「地域の団体」です。

Q: 自分が見守られる立場になる前にできることは何か

A: 互いに助け合える仲間、支え合える繋がりは以外と身近にあります。気の合う仲間で集まり、これからの「老後=支援される」を、どんな風にしていきたいか、どんな支援なら受けたいか…まずはお茶でも飲みながらお話ししてみてはいかがでしょうか。続けるとお互いの「見守り活動」になりますね。

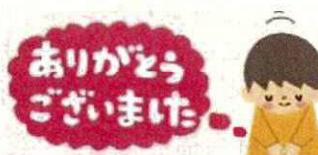
Q: 他の地域での取り組みを教えて

A: 白石市社会福祉協議会では、サロンやサロン以外の地域の集いの場などを随時facebookやサロン活動・地域活動情報誌「まちしるべ」に掲載し、ご紹介させていただいております。是非ご覧ください。 詳細につきましては白石市社会福祉協議会地域支援係までお問い合わせください。

※その他、白石市の人口や病院、経済面などに対してのご意見も何件かいただきました。

感想【一部抜粋】

1. ユーモアをまじえて大変わかりやすいお話でした。
2. 斎川の子どもたちと一緒に取り組みがいいなと思いました。しかも子どもも指導者にしていることは素晴らしい！
3. 本日のテーマ（研修会）に参加された方々がこれだけいらっしゃるということに対して心強く思う。
4. これから地域を考えていく上で良い勉強になりました。「支えられる側の視点」は初めてだったのでとても良かったです。
5. 川原子地区の人たちの努力にエールを送ります。
6. 講演は面白く話され難しいこともできそうに感じた。実践報告では「長い期間の取り組み」に感銘しました。
7. 分かりやすい講演と、実践例に拍手です！
8. あじさいの季節になると、お年寄りをお誘いして見にいっています。心がなごみ明るくなります。いつまでも続けて欲しいと思います。
9. 自分の中では覚悟していましたが、酒井先生のお話しさはとてもわかりやすく、具体的で良かった。未来の大人にも現状を聞かせたかった（高校生など）。
10. バランスが大事。必ず見守られること、繋がりが大事。よくわかります。
11. 高齢者福祉事業活動について参考にしたい。
12. 川原子地区の方々のあじさいへの愛情が素晴らしい！斎川地区での伝統行事やお弁当配達など色々な活動に感心しました。
13. 「支え合い」に対する根本的な考え方方が間違っていた。目から鱗の思ひでした。今後の活動に活かしていきたい。ありがとうございました。
14. 大変身近な話題から問題提起をしてわかりやすく面白かった。近所の人をもっと説けばよかった。
15. 日常の無理のない生活が大事ということが理解できた。斎川の町づくりが面白かったです。
16. あじさいロードには草刈りのボランティアを募ってみては？
17. 今までの研修とちがう話を聞かせてもらって大変良かったです。
18. 白石の将来が心配、高齢化、若者がいない！！
19. 良い研修でした。肉料理を食べるぞ！
20. とても楽しい話の中にキラリと光る大切なものが見えた研修会でした。



※その他、多くの貴重なご意見・ご感想をお寄せいただきました。引き続き、皆様とともに楽しく学べる研修会を開催できるように参考とさせていただきます。ありがとうございました。（担当：佐野、山家）

ふれあいサロン・地域活動情報誌

平成30年4月発行



まちしるべ

— 第5号 —



平成30年3月5日（月）

平成29年度 高齢社会と地域づくりを考える研修会 開催
基調講演講師 ご近所福祉クリエイション主宰 ご近所福祉クリエーター

酒井 保氏

社会福祉法人 白石市社会福祉協議会

〒989-0231 白石市福岡蔵本字茶園62-1

TEL: 0224-22-5210

FAX: 0224-22-1571

Mail: tiiki@shiroishi-shakyo.jp



一人ひとりの“できる”で支え合う地域をめざす・・

第一部 基調講演【一部抜粋】

いざれは自分も「見守られる立場」になる・「見守り活動」から「見守られ活動」へ

ご近所福祉クリエイション主宰 ご近所福祉クリエーター 酒井 保 氏

昭和36年生まれ、広島出身。知的障がい者福祉施設、市町村社会福祉協議会、認知症グループホーム、小規模多機能施設の勤務を経て、平成26年8月に「ご近所福祉クリエイション」を創設（主宰）。ご近所福祉クリエーターという肩書きのもと、広島と仙台を拠点として、全国各地で講演している。福祉・支え合いの現状に見える「本人不在・関係者主導」に疑問を抱き、本人を主体に据えた支え合いづくりの手法として「住民歴書＆エゴマップづくり」を考案。災害時要援護者支援や支え合い形成の取り組みなどにも活用されている。



「地域支え合い」と「健康寿命」は密接な関係

日本は世界で長寿第2位、第1位は香港です。2025年問題になると5人に1人が後期高齢者になります。2025年にピークを迎えて収束するのではなく、2025年から始まるということです。そしてこれがもう40年～50年続くといわれています。私たちはおおよそお墓の中ですが、だからといって関係ないことはないのです。生まれた子が40歳、50歳になるまで続くということです。2025年問題は「大人たちの問題」ではなく、「子どもたちの問題」なのです。2025年は7年後です。子どもたちのためにできること、次の世代への負担を軽くしていくこと・・・そのために、「健康長寿」・「地域支え合い」この2つが大切なことです。

本当の「支え合い」「助け合い」を理解している？

皆さんが活動として行っているのは「支え合い」ではないかもしれません。辞書でしらべると「支え合い」とは、「支えられること」と「支えること」と出ます。テーマが支え合いの研修会は、檀上に上がる人は支えている側の人が「支え方」についてお話ししていることがほとんどです。考えてみたら、我々は「支えられる」学習はしていませんね。本来でしたら「支えられること」と「支えること」の両方を学んで、理解してからでなければ、「支え合い」を作ることは出来ないはずですね。我々がしていることは「支え」です。「あい」がないんですね。

「ぴんコロ願望」って知ってる？

「ぴんぴんコロリ」で逝きたい人はいますか？これは、今一番難しい死に方ですよ。大体皆さん「家でぴんぴんコロリ」を望む人が多いですね。私も「ぴんコロ」で逝きたいと常にいっています。しかし、たとえば今私が胸を抑えて倒れました。皆さんはどうしますか？・・・昔は電話機を探しましたが、今は携帯電話やスマートフォンをお持ちですから、すぐに119番通報できますね。これだけの人数がいたら誰かは心肺蘇生ができますね。それに今は施設には必ずAEDが置かれていますね。ということは、今は「ぴんぴんコロリが出来ない条件」がそろっているということです。・・・となれば、皆さん順調に年をとって、今できていることがだんだんできなくなっていくのです。いいですか、皆さん死ぬまでに必ず一回は誰かに支援してもらって死んでいくということです。「ぴんコロ」以外は・・・

豊かな老後のイメージ・・縁側と猫とお茶と羊羹

ご自分の豊かな老後の姿をイメージしてみてください。・・・だいたい皆さんがイメージした「豊かな老後の姿」というのは、縁側でひなたぼっこしながら、猫ちゃんの頭をなで、羊羹食べながらお茶をすすっているイメージじゃないですか？・・・残念ながら皆さん 紙おむつをあてられ、車いすに座らせられて、食べ物を口まで運ばれます。それが老いる（「支援される」）ということです。

「支援される自分」目線のサービス

皆さん「支援されること」（「老いること」）については選択できないのです。逆に「支援すること」については選択できますね。「支え合い」というのはこの両方をいうのですが、おかしいじゃないですか？・・・皆さん、「支え合い、支え合い」というけれども、選択できる「支援する側」だけを一生懸命勉強して、どうしたって選択できずに必ず迎える「支援される側」のことを知らないといいのですか？・・・「支え合い」の仕組みを作っていく過程では「支援すること」を起点に考えています。その過程で「支援される側」の人

は大体カヤの外です。「本人不在・関係者主導」・・・そういった「支え合い」は「支援される側」からみたら使いづらいサービスになります。「支援される側」の立場になって考えると「うん、これなら使いたい！」というサービスができます。柔道は投げ飛ばされることを前提に試合をします。受け身です。支え合いも同じです。必ず「支援される立場＝受け身になること」を盛り込んで、その立場になった時にどういうサービスが有ったらいいかなと考えて取り組みましょう。

——(中略)——

繋がっていくことは「見守られ活動」でもある

繋がりは人間関係の中で生まれます。「繋がり」は「社会性」です。健康寿命を延ばすためには「社会性」が大事です。社会性は「制度サービス」では供給できません。これは地域でできるものです。「わいわいがやがや」とみんなで作るものです。

「あら、酒井のおじいちゃん来ていないね」・・・と「気にしてもらえる」関係性。「気になる」という関係性。配食サービスで弁当を運んだら「サービス1回」とカウントできます。でも「煮物作りすぎちゃったから食べて～」「沢山もらったからおすそ分け～」という数値化されない「普段の生活の中にある支え合い」・・・この「ご近所づきあい」はカウントできない大切な支援です。

今の繋がりを壊さないように、新しいことを考えていったらいいんじゃないかな・・・と思います。

第二部 実践報告

① 川原子あじさいを愛する会の活動

「川原子あじさいロード」という名所ができるまでの長い歴史。それはたった一人の「地域への思い」から始まり、その孤独な活動はいつしか仲間を呼び、かけがえのない宝となりました。互いに支え合いながら活動する姿と鮮やかなあじさいの映像がとても美しく、確固たる意思の強さとともに会場の心を奪いました。

② 斎川まちづくり協議会の取り組み

「斎川地区活性化」について、住民が真剣に向き合い活動するその根底には、子どもたちの笑顔がありました。子どもたちがこれから迎える未来のために、そして愛着ある「故郷・斎川」を作るために、斎川まちづくり協議会が核となって、大人も子どもも、ともに知恵を出し合い奔走するその勇姿に深い感銘を受けました。



酒井先生のご講話や川原子地区・斎川地区の実践報告から受け取った「思い」・「参考にしたくなる活動」が、地域の皆様の今後の活動の糧となり、本当の支え合いとして実を結ぶことを願っております。

ご協力いただきました関係各位、ご参加いただきました皆様に紙面上より心から感謝申し上げます。

講師から感想

ご近所福祉クリエーター 酒井 保 氏

「ご自分の暮らしぶりを貫く」ことを自負している地域人たちのカッコ良さに感動した一日でした。良い学び、楽しい出会いを頂戴しました。このような機会にお声がけいただき、感謝しております。これからもどうぞよろしくお願ひいたします。

宮城県社会福祉協議会 震災復興・地域福祉部 参事 おいかわ かずゆき 氏

皆様の普段の暮らしのなかには、実は様々な繋がりがあります。繋がることが「見守り・見守られる」ことになります。住み慣れたこの場所で、安心して暮らし続けることができるよう、これからも応援させていただきます。

